

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500056		
法人名	社会福祉法人 古平福祉会		
事業所名	認知症グループホーム 夕風(1F 夕風フロア)		
所在地	古平郡古平町大字浜町645番地		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果市町村受理日	令和3年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosyoCd=0192500056-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・その人らしい生活や生き方を大切に、介護計画や日々の支援にあたっては、
・加齢とともに、行動範囲が狭くなってしまいますが、日常の関わりを大切に常に笑いや笑顔を意識して、日々支援を行っています。
・身体機能が維持向上できるように、日々の生活の中にも全身体操や嚙下体操、レクリエーションを行ない、楽しみながら体力の維持が出来るよう心がけています。月1回、機能訓練指導員に訪問して頂き、運動を行なっていますが、現在はコロナの予防のため一時的に中止しています。
・毎月の行事や花壇を通し、地域の交流や四季を感じ取れるよう支援しています。
・入院された方に対し、時折お見舞いへ伺い体調確認や会話など心のケアを大切にしています。また、ご家族が遠方の場合、入院先にて何か困った事態が起きた時など、手を差し伸べる必要がある時は、可能な範囲で対応していくように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古平町中心部の住宅街に位置する2階建て2ユニットのグループホームである。近くに町の保健福祉課が入る複合施設「元氣プラザ」や協力医療機関、消防署などがあり、商店、バス停も徒歩圏である。建物内は広めの廊下を挟んで居間と食堂、居室が配置され、窓が大きく明るい。廊下には腰掛けできる量のスペースが複数あり、多目的室も備えるなど余裕のある造りである。トイレや浴室も広く、共用空間は壁に利用者の写真や作品を飾り、家庭的で明るい雰囲気となっている。運営する社会福祉法人が町内で多くの介護福祉施設、障害福祉施設を運営し、人材育成や研修の実施、運営支援などの体制を整えている。地域に密着した運営がなされ、お祭りの参加、保育園児、中学生の来訪があり、運営推進会議に町職員や町内会、住民の継続的な参加が得られている。ケアマネジメントの面では、センター方式のアセスメントシートで生活歴や趣味・嗜好を把握し、継続的な情報の充実を図っている。また、介護計画更新時のモニタリングおよび目標の評価をきめ細かく行っている。医療面では、至近の協力医療機関および希望する医療機関への通院を職員が支援し、看護師を配置して利用者の健康管理を行っている。清潔で快適な環境のもと利用者がゆったりと安心して過ごすことができるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F タ風フロア)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度は、コロナ禍により地域密着的な支援は難しかったが、風花の理念であるその人らしい生活や生き方を重視し、日々の業務にあたっている。また、会議や介護計画作成についても意識して話し合いを行なっている。	3項目からなる理念の中に「地域とのつながりを継続できる環境・関係性」という文言を入れ、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を玄関に掲示し、職員会議や個人面談の際に理念を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は、ご家族や町内の方を招いたお食事会や、地域のお祭りなど様々な行事に参加し、地域の方との交流を大切にしていたが、今年度はコロナの影響で活動が制限している。	感染症流行前は近くの複合施設「元気プラザ」に地域のお祭り見物、クリスマスの保育園児の来訪、中学生の職業体験の受け入れがあった。現在は中止しているが、感染症の収束後は再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習など、依頼があれば例年受け入れているが、今年度は相談が無い。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月おきに開催し、入居者の状況や行事報告、ヒヤリハットや事故報告などを報告している。議題を事前に伝えることで、協議し易いようにし、委員の方からのご意見も、その後のサービスに活かしている。コロナ禍により開催出来ない時は資料を渡し承認を頂いている。	会議を2か月ごとに開催し、町、町内会員、民生委員、利用者家族の参加を得て、防災や身体拘束、ヒヤリハット事例、今後の行事、サービス評価などをテーマに話し合っている。議事録を要約したものを家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険系の職員が2か月おきの運営推進会議に参加して頂いており、情報交換やアドバイスを頂いている。また、今年度は実施出来なかったが、お祭りなどの行事も町職員と連携を取り行う事がある。	運営推進会議に町職員の参加があり、情報提供を受けている。事業所近くの「元気プラザ」内に町の保健福祉課があり、いつでも気軽に相談できる。職員の定期検診について町に相談したことがある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍のため、外部研修は控えており、身体拘束廃止委員会にて、身体拘束の正しい知識の確認する内部研修している。また、この委員会にて、日中は玄関を施錠せず、過ごせる環境の見直しを継続的に協議し、必要に合わせセンサーチャイムや廊下に仕切りカーテンを設置している。	身体拘束を行っておらず、身体拘束ゼロの手引き、禁止行為を記した小冊子を使い、年2回以上の勉強会と外部研修の報告会を行っている。毎月の職員会議に合わせて身体拘束廃止委員会を開催している。玄関は日中施錠せず、外出があればセンサー音で分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、法人内の虐待防止委員会に出席している。内部研修にて、虐待予防チェックリストを年2回実施し予防を周知している。気になる事があれば、すぐ管理者へ報告する意識付けをしている。外部研修はコロナ禍のため控えている。		

認知症グループホームタ胤

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F タ胤フロア)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内でも法人後見や任意後見を設立しており、会議や内部研修にて成年後見人制度・法人後見人制度・任意後見人制度などを学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書や重要事項説明書にそって説明や確認の上、同意を頂いており、解約の時も、その内容に沿って対応をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。運営推進会議にて頂いたご意見も大切にしている。入居者へお食事アンケートを年1回行い献立に反映している。入居者へは、日々の生活の中での会話を大切にしているが、ご家族は面会や行事の機会が減り、ご意見を聞く機会が減っている。	家族との面会時や電話の際に意見を聞いている。年1回、家族を集めた食事を開催し、意見交換している。家族からの意見をフロア日誌や個人記録に記載して共有しており、より見やすい記載方法を検討している。また、2か月ごとに「風花新聞」を発行し家族に提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月法人全体会議にて各事業所の経過報告をしている。代表幹事も月1回職員会議に出席し、現場を理解している。各ユニット会議の内容は、統括や管理者へ報告し、業務や支援内容の改善に努めている。	毎月、法人の会議、職員会議等があり、職員は活発に意見交換している。運営面の改善は職員を反映したものである。職員はレクリエーション、通信作成、備品管理、オムツなどの係を分担し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当以外にも、勤務状況により準職員と正規職員の差があり、努力や力量によっては、役職や委員への人事も行っている。資格を習得したい職員へは、必要に応じて奨学金制度も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は、コロナの状況を見て外部研修は控えているが、例年、必要な研修や資格の習得に対し理解が大きい。法人内や施設内でも、定期的に内部研修を行い、必要な知識を学ぶ機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	余市グループホーム協議会への加入。コロナ禍の中開催は出来なかったが、例年懇親会も含め交流の機会をもうけている。また、法人内の介護保険部門会議でも情報共有を大切にしている。		

認知症グループホームタ胤

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F タ胤フロア)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は、ご本人やご家族から要望や生活内容を聞き取りアセスメントしている。入居後も安心できるような声掛け聞き取りを意識して介護にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上で、入居申し込みや入居前訪問、入居後も面会の際などにご本人の様子の確認し合いや要望などを伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込みの相談の時点で、ご本人やご家族へ意向や状況を確認している。また、担当ケアマネやサービス事業所を通して、状況の把握を大切に調整を行っている。必要によってはサービス事業所や病院先へ伺うこともある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で会話を大切に、趣味や得意な家事などを教えて貰ったり、一緒に行い信頼関係を築いていけるよう支援し、会議などで共有している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者をご家族と一緒に支え合いたい思いがあり、2ヶ月おきに新聞やお手紙を送付し状況報告をしている。他にも、日々の変化や通院の経過など、ご家族へ報告し意向確認をしている。外出の際は、福祉用具の貸し出しや送迎の協力をする事もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な方は行きつけの理美容院へ出掛けたり、ご家族や知人の来訪時は、小上がりや居室でお茶を提供しゆっくり過ごせるようにしていたが、コロナ禍の中、最低限の外出となり、理美容院は来館して頂いている。面会のご家族のみ面会室にて10分程度に留めている。	感染症流行前は2~3名ほどの利用者に友人、元の近所に住んでいた方などが来訪していた。現在も知人との電話や手紙のやりとりを支援している。以前は職員が随行し、理容院、スーパー、墓参り、温泉、自宅などに行っており、感染症収束後は再開する予定としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく関わり合えるように促しているが、場面によっては一人で過ごす時間も大切にしている。行事やレクなどの際は、それぞれ楽しめるよう席配置など工夫をしている。		

認知症グループホームタ風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F タ風フロア)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人として、契約を終了しても、近郊にご家族がおられない方が、入院先で何か困った事態が起きた時など、手を差し伸べる必要がある時は、可能な範囲で対応をしてきている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご本人の意向を把握出来る様に心掛けている。意志疎通が難しい方には、ご家族への聞き取りやご本人にとっての自立とは何か、フロア会議やカンファレンスにて協議している。	半分ほどの利用者は思いや意向を言葉で表現でき、難しい利用者は表情やしぐさ等から把握している。センター方式のアセスメントシートは利用者ごとに情報量に差があるものの、充実を進めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントは、センター方式を活用し、ご本人やご家族から生活歴や在宅にて過ごされていた時の様子などを、教えてもらい記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の体調変化に気付けるよう、毎日体調の確認と共にバイタル測定を実施している。また、朝夕の引継ぎや記録を通し職員間でも共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントは6ヶ月毎のケアプラン見直し時に行い、ご本人やご家族の意向を確認しつつ、健康状況を踏まえ、全職員の視点を通して、現実的なプランを作成するよう心掛けている。	介護計画を6か月ごとに更新している。目標に応じたモニタリングを詳細に行い、会議での意見交換を経て計画を見直ししている。個人記録の他に目標の実施状況を記録する「実施記録統計表」を作成し、計画の見直しに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日誌は、日常の様子や通院内容など色分けして記載することで確認し易くしている。又、ケアプランの目標が達成できたかを毎日評価し、毎月フロア会議にて評価している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	元々、法人の方針として制度にとらわれずに、必要な支援を形にする姿勢がある。例えば、入院している妻への面会支援など希望に合わせた外出支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(お祭り、敬老会等)への参加、古平高齢者福祉協議会へ加入し、盆踊りの復興にも力を入れていたが、コロナ禍により今年度は控えている。しかし、状況をみて文化祭や展示会は可能な範囲で参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠方でも、ご本人やご家族の意向に合わせ、在宅からのかかりつけ医へ通院するようにしている。通院は医師へのお手紙を用意し職員が通院介助しているが、ご家族の希望があれば、診察へ同席される方もいる。	8割の利用者が近くの協力医である診療所に月1回通院している。他の利用者や内科以外への通院も事業所で送迎している。受診内容を個人記録と日誌に記録し共有しており、個々の受診記録の作成も検討している。	

認知症グループホームタ風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F タ風フロア)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の病状や服薬に不安のある時は法人看護師へ相談している。必要に応じて、駆け付けて症状の確認をして頂き、受診などのアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報を病院に伝え、医師や看護師、ソーシャルワーカーと状況の共有をし、ご家族と共に早期退院が出来るよう支援している。現在は、コロナ禍のため入院中の面会は出来ていないが、退院の際は、事前訪問の相談をし、状態の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方針を伝え、医療面での限界や重度化による対応の厳しさなど、個別に合わせ段階的にご本人やご家族と話し合っている。医療面では、医師やご家族と話し合い適切な受け入れ先を決めることがある。重度化については、移乗介助など介護技術の向上に努めている。	地域的な理由で医療面の24時間支援体制が難しいため現状は看取りを行っておらず、利用者や家族にその旨を説明し、理解を得ている。重度化した場合は協力医より適切な入院先の紹介を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	館内には、AEDを設置している。普通救命講習の定期受講、今年度はコロナ化により講習が中止となった為、内部研修で職員間で共有している。また、救急マニュアルをいつでも閲覧できるよう事務所に保管している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施。津波や原子力防災訓練も年1回実施。発電機や防災無線完備、断水や停電の災害を踏まえ、防災グッズの追加購入し定期点検を行っている。運営推進委員会にて、客観的なご意見も頂き反映させるようにしている。	年2回、夜間を想定した避難訓練を消防署や地域住民の協力を得て行っている。AEDを設置し職員は救急救命訓練を定期的を受講している。法人で災害時に必要な備蓄品を用意している。地震時等の対応についての確認は十分でない部分がある。	地震等、火災以外の災害対応について防災ハンドブックや防災マニュアルを参考に年1回程度、職員間で確認および課題抽出の話し合いを行うことを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内の内部研修では、ご家族へ説明している個人情報保護基本方針の内容を確認したり、事例を通し相手の気持ちを理解するよう伝えている。	プライバシー保護の研修を実施している。利用者への呼びかけは「さん」付けを基本に、本人の意向で愛称で呼ぶこともある。申し送りはイニシャルで行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時折、ご本人が上手に訴えや思いを伝えられないことがあり、ご家族からの情報や日々の様子から察し、ご本人が何を伝えたいか模索しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	充分とは言えないが、入居者一人ひとりのペースが尊重されるように努めている。また、毎回ではないが、ニーズに合わせて個別支援も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院等の外出に合わせ外出用の衣類を事前に用意したり、ご本人に着る服を確認し、おしゃれを楽しみながら外出出来るよう支援している。		

認知症グループホームタ凧

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F タ凧フロア)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせた食事形態にしている。一緒に準備する機会は減っているが、後片付けを手伝ってもらっている。漬け物作りなどの行事では、入居者へ野菜切りなどお願いし一緒に楽しんでいる。	おかずは法人の厨房で調理し、ご飯と汁物を事業所で作っている。ひな祭りにバイキングを楽しんだり、地元料理のクジラ汁や桜餅などを利用者と一緒に作っている。検食として職員1名が同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全入居者の水分や食事を記録し把握している。ホームにてお茶を提供しているが、ご本人やご家族の希望や必要性に合わせ、個別の水分を購入する方もいる。月1回体重測定も行い、栄養状態の確認もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後までは行えていないが、就寝前は必ず全員の口腔ケアを行い、入れ歯の消毒もしている。年1回歯科検診を実施しており、口腔内の不具合があれば、その都度歯科医へ相談している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の健康管理を大切に、水分食事摂取量、お薬管理、排尿、排便等の一覧表を用意職員間で共有している。安全と自尊心を大切につつ、必要に応じてトイレの促しや介入をし、自立に向けた支援を心掛けている。	自立している利用者も数名いるが、排泄チェック表に記録してさりげなく声かけしたりトイレ誘導を行い失敗を減らしている。日中はトイレでの排泄を支援し、夜間のみ身体状況に応じてポータブルトイレを使用したりベッド上で排泄用品を交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日全員の水分量を把握し、1日1L以上摂取できるように目指している。又、最終排便を引継ぎ便秘の方が自然排便できるよう、マッサージやホットパック、適度な体操などの支援をしている。主治医へ下剤の相談もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は同性介助を基本とし、一人ずつ湯を替え、湯温計や入浴剤の使用などを行っている。足腰の弱い方は、シャワー浴をしているが、足浴も一緒に取り入れる様にしている。一対一の会話を楽しみ、リラックスして入浴できるよう意識している。	希望の時間帯や湯加減に配慮し、各利用者に3日おきに週2回の入浴を支援している。入浴をいやがる場合は時間や声かけする職員を交代し、スムーズに入浴できるように工夫している。好みのシャンプーや石鹸を使用する利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に合わせて休息がとれるよう促し、ベッドでの仮眠時間を大切にしているが、生活のメリハリも意識し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されたお薬説明書は、一つのパファイルに綴じ常に確認できるようにしている。副作用など心配な時は病院や薬局、法人看護師へ相談している。錠剤が飲めない方は、粉碎を相談やお薬ゼリー、薬配カップの使用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や食事の手伝いを通した役割作りを大切にしている。また、レクや行事以外にも、日々の関わりの中で笑いや楽しい時間を過ごせるよう意識している。		

認知症グループホームタ風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F タ風フロア)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの予防のため、行事や買い物、散髪などの外出介助は控えめにしている。温かい時期は、敷地内やテラスにて、時々日光浴を行い、たまにホーム周辺の散歩も行っていった。	普段はテラスで日光浴をしたり、玄関前を散歩している。恵比寿神社や琴平神社のお祭りに行ったり、近隣の桜を見に出かけている。感染症の流行で外出する機会は少なかったが、年間を通して受診で外気に触れている。個別支援で受診帰りに買い物をすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は、紛失しても責任を負えないことをご本人やご家族へ説明し、その上で希望される方は自己管理され、通院や床屋、買物にて支払いをしている。管理が不安の方は、小口預かりや立替え払いも受け付けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話はあるが、現在は自ら電話や手紙を書く方はいない。電話を受けた時は、相手の声が聞こえない時などは仲介に入り伝達することがある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや食堂窓等に、季節にあった飾り物を定期的につけている。また、リビングの窓からは花壇も見えており、季節感を感じられる様にしている。トイレはフロア内に4カ所あり、それぞれ自由に使っている。	独立した食堂と居間を中心に、居室や浴室、トイレが配置された明るく開放感のある造りになっている。小上がりもあり、他の利用者の声を聞きながら一人でゆっくり過ごせる場所となっている。観葉植物や日めくり、利用者と一緒に制作した季節のちぎり絵などがあり家庭的な温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ、独りで過ごしたい時は居室へ戻られることが多い。また、廊下には小上がりが2カ所とソファ1台設置。野外も敷地内にはいくつかベンチを設置し、皆さん自由に過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご家族へなるべく新しいものでなく使い慣れた物を用意して欲しいと伝えている。お茶碗やお碗などもご自宅から持参して頂いている。日頃の作品やお祝いカードなども飾り、居心地良い空間を心掛けている。	衣類収納庫が設置されている居室に、使い慣れたタンスやテレビ、冷蔵庫などを使いやすく配置している。好きなぬいぐるみやラジカセ、アルバムなどを持って来ている利用者もいる。ぬりえなどの作品を飾り、落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差解消、手すりやナースコール、オール電化など安心できる環境を整えている。居室には表札をつけ、トイレ等にはピクトグラムを表示している。初めの方には、居室入口の目印を置きお部屋が覚えやすいよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500056		
法人名	社会福祉法人 古平福祉会		
事業所名	認知症グループホーム 夕風(2F 朝風フロア)		
所在地	古平郡古平町大字浜町645番地		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果市町村受理日	令和3年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsoyoCd=0192500056-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・その人らしい生活や生き方を大切にし、介護計画や日々の支援にあたっては、 ・加齢とともに、行動範囲が狭くなってしまいますが、日常の関わりを大切に常に笑いや笑顔を意識して、日々支援を行っています。 ・身体機能が維持向上できるように、日々の生活の中にも全身体操や嚙下体操、レクリエーションを行ない、楽しみながら体力の維持が出来るよう心がけています。月1回、機能訓練指導員に訪問して頂き、運動を行なっていますが、現在はコロナの予防のため一時的に中止しています。 ・毎月の行事や花壇を通し、地域の交流や四季を感じ取れるよう支援しています。 ・入院された方に対し、時折お見舞いへ伺い体調確認や会話など心のケアを大切にしています。また、ご家族が遠方の場合、入院先にて何か困った事態が起きた時など、手を差し伸べる必要がある時は、可能な範囲で対応していくように努めています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年2月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F 朝風フロア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度は、コロナ禍により地域密着的な支援は難しかったが、風花の理念であるその人らしい生活や生き方を重視し、日々の業務にあたっている。また、会議や介護計画作成についても意識して話し合いを行なっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は、ご家族や町内の方を招いたお食事会や、地域のお祭りなど様々な行事に参加し、地域の方との交流を大切にしていたが、今年度はコロナの影響で活動が制限している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習など、依頼があれば例年受け入れているが、今年度は相談が無い。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月おきに開催し、入居者の状況や行事報告、ヒヤリハットや事故報告などを報告している。議題を事前に伝えることで、協議し易いようにし、委員の方からのご意見も、その後のサービスに活かしている。コロナ禍により開催出来ない時は資料を渡し承認を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険系の職員が2か月おきの運営推進会議に参加して頂いており、情報交換やアドバイスを頂いている。また、今年度は実施出来なかったが、お祭りなどの行事も町職員と連携を取り行う事がある。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為Jを正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍のため、外部研修は控えており、身体拘束廃止委員会にて、身体拘束の正しい知識の確認する内部研修している。また、この委員会にて、日中は玄関を施錠せずに過ごせる環境の見直しを継続的に協議し、必要に合わせセンサーチャイムや廊下に仕切りカーテンを設置している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	毎月、法人内の虐待防止委員会に出席している。内部研修にて、虐待予防チェックリストを年2回実施し予防を周知している。気になる事があれば、すぐ管理者へ報告する意識付けをしている。外部研修はコロナ禍のため控えている。		

認知症グループホームタ凧

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F 朝凧フロア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内でも法人後見や任意後見を設立しており、会議や内部研修にて成年後見人制度・法人後見人制度・任意後見人制度などを学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書や重要事項説明書にそって説明や確認の上、同意を頂いており、解約の時も、その内容に沿って対応をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。運営推進会議にて頂いたご意見も大切にしている。入居者へお食事アンケートを年1回行い献立に反映している。入居者へは、日々の生活の中での会話を大切にしているが、ご家族は面会や行事の機会が減り、ご意見を聞く機会が減っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月法人全体会議にて各事業所の経過報告をしている。代表幹事も月1回職員会議に出席し、現場を理解している。各ユニット会議の内容は、統括や管理者へ報告し、業務や支援内容の改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当以外にも、勤務状況により準職員と正規職員の差があり、努力や力量によっては、役職や委員への人事も行っている。資格を習得したい職員へは、必要に応じて奨学金制度も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は、コロナの状況を見て外部研修は控えているが、例年、必要な研修や資格の習得に対し理解が大きい。法人内や施設内でも、定期的に内部研修を行い、必要な知識を学ぶ機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	余市グループホーム協議会への加入。コロナ禍の中開催は無かったが、例年懇親会も含め交流の機会をもうけている。また、法人内の介護保険部門会議でも情報共有を大切にしている。		

認知症グループホームタ胤

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F 朝風フロア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は、ご本人やご家族から要望や生活内容を聞き取りアセスメントしている。入居後も安心できるような声掛け聞き取りを意識して介護にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上で、入居申し込みや入居前訪問、入居後も面会の際などにご本人の様子の確認し合いや要望などを伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込みの相談の時点で、ご本人やご家族へ意向や状況を確認している。また、担当ケアマネやサービス事業所を通して、状況の把握を大切に調整を行っている。必要によってはサービス事業所や病院先へ伺うこともある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で会話を大切に、趣味や得意な家事などを教えて貰ったり、一緒に行い信頼関係を築いていけるよう支援し、会議などで共有している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者をご家族と一緒に支え合いたい思いがあり、2ヶ月おきに新聞やお手紙を送付し状況報告をしている。他にも、日々の変化や通院の経過など、ご家族へ報告し意向確認をしている。外出の際は、福祉用具の貸し出しや送迎の協力をする事もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な方は行きつけの理美容院へ出掛けたり、ご家族や知人の来訪時は、小上がりや居室でお茶を提供しゆっくり過ごせるようにしていたが、コロナ禍の中、最低限の外出となり、理美容院は来館して頂いている。面会のご家族のみ面会室にて10分程度に留めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく関わり合えるように促しているが、場面によっては一人で過ごす時間も大切にしている。行事やレクなどの際は、それぞれ楽しめるよう席配置など工夫をしている。		

認知症グループホームタ風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F 朝風フロア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人として、契約を終了しても、近郊にご家族がおられない方が、入院先で何か困った事態が起きた時など、手を差し伸べる必要がある時は、可能な範囲で対応をしてきている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご本人の意向を把握出来る様に心掛けている。意志疎通が難しい方には、ご家族への聞き取りやご本人にとっての自立とは何か、フロア会議やカンファレンスにて協議している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントは、センター方式を活用し、ご本人やご家族から生活歴や在宅にて過ごされていた時の様子などを、教えてもらい記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の体調変化に気付けるよう、毎身体調の確認と共にバイタル測定を実施している。また、朝夕の引継ぎや記録を通し職員間でも共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントは6ヶ月毎のケアプラン見直し時に行い、ご本人やご家族の意向を確認しつつ、健康状況を踏まえ、全職員の視点を通して、現実的なプランを作成するよう心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日誌は、日常の様子や通院内容など色分けして記載することで確認し易くしている。又、ケアプランの目標が達成できたかを毎日評価し、毎月フロア会議にて評価している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	元々、法人の方針として制度にとらわれずに、必要な支援を形にする姿勢がある。例えば、お墓参りや郵便局への手続きなど、希望に合わせた外出支援なども行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(お祭り、敬老会等)への参加、古平高齢者福祉協議会へ加入し、盆踊りの復興にも力を入れていたが、コロナ禍により今年度は控えている。しかし、状況をみて文化祭や展示会は可能な範囲で参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠方でも、ご本人やご家族の意向に合わせ、在宅からのかかりつけ医へ通院するようにしている。通院は医師へのお手紙を用意し職員が通院介助しているが、ご家族の希望があれば、診察へ同席される方もいる。		

認知症グループホームタ胤

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F 朝風フロア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の病状や服薬に不安のある時は法人看護師へ相談している。必要に応じて、駆け付けて症状の確認をして頂き、受診などのアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報を病院に伝え、医師や看護師、ソーシャルワーカーと状況の共有をし、ご家族と共に早期退院が出来るよう支援している。現在は、コロナ禍のため入院中の面会は出来ていないが、退院の際は、事前訪問の相談をし、状態の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方針を伝え、医療面での限界や重度化による対応の厳しさなど、個別に合わせ段階的にご本人やご家族と話し合っている。医療面では、医師やご家族と話し合い適切な受け入れ先を決めることがある。重度化については、移乗介助など介護技術の向上に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	館内には、AEDを設置している。普通救命講習の定期受講、今年度はコロナ化により講習が中止となった為、内部研修で職員間で共有している。また、救急マニュアルをいつでも閲覧できるよう事務所に保管している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施。津波や原子力防災訓練も年1回実施。発電機や防災無線完備、断水や停電の災害を踏まえ、防災グッズの追加購入し定期点検を行っている。運営推進委員会にて、客観的なご意見も頂き反映させるようにしている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内の内部研修では、ご家族へ説明している個人情報保護基本方針の内容を確認したり、事例を通し相手の気持ちを理解するよう伝えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時折、ご本人が上手に訴えや思いを伝えられないことがあり、ご家族からの情報や日々の様子から察し、ご本人が何を伝えたいか模索しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	充分とは言えないが、入居者一人ひとりのペースが尊重されるように努めている。また、毎回ではないが、ニーズに合わせて個別支援も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院等の外出に合わせて外出用の衣類を事前に用意したり、ご本人に着る服を確認し、おしゃれを楽しみながら外出出来るよう支援している。		

認知症グループホームタ胤

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F 朝風フロア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせた食事形態にしている。一緒に準備する機会は減っているが、後片付けを手伝ってもらっている。漬け物作りなどの行事では、入居者へ野菜切りなどお願いし一緒に楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全入居者の水分や食事を記録し把握している。ホームにてお茶を提供しているが、ご本人やご家族の希望や必要性に合わせ、個別の水分を購入する方もいる。月1回体重測定も行い、栄養状態の確認もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後までは行えていないが、就寝前は必ず全員の口腔ケアを行い、入れ歯の消毒もしている。年1回歯科検診を実施しており、口腔内の不具合があれば、その都度歯科医へ相談している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の健康管理を大切に、水分食事摂取量、お薬管理、排尿、排便等の一覧表を用意し職員間で共有している。安全と自尊心を大切につつ、必要に応じてトイレの促しや介入をし、自立に向けた支援を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日全員の水分量を把握し、1日1ℓ以上摂取できるように目指している。又、最終排便を引継ぎ便秘の方が自然排便できるよう、マッサージやホットパック、適度な体操などの支援をしている。主治医へ下剤の相談もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は同性介助を基本とし、一人ずつ湯を替え、湯温計や入浴剤の使用などを行っている。足腰の弱い方は、シャワー浴をしているが、足浴も一緒に取り入れるようにしている。一対一の会話を楽しみ、リラックスして入浴できるよう意識している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に合わせて休息がとれるよう促し、ベッドでの仮眠時間を大切にしているが、生活のメリハリも意識し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されたお薬説明書は、一つのファイルに綴じ常に確認できるようにしている。副作用など心配な時は病院や薬局、法人看護師へ相談している。錠剤が飲めない方は、粉碎を相談やお薬ゼリー、薬配カップの使用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や食事の手伝いを通じた役割作りを大切にしている。また、レクや行事以外にも、日々の関わりの中で笑いや楽しい時間を過ごせるよう意識している。		

認知症グループホームタ胤

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F 朝風フロア)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの予防のため、行事や買い物、散髪などの外出介助は控えめにしている。温かい時期は、敷地内で時々日光浴を行いホーム周辺の散歩も行ってた。希望に合わせ、ご家族との外出へ同席することもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は、紛失しても責任を負えないことをご本人やご家族へ説明し、その上で希望される方は自己管理され、通院や床屋、買物にて支払いをしている。管理が不安の方は、小口預かりや立替え払いも受け付けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話はあるが、現在は自ら電話や手紙を書く方はいない。電話を受けた時は、相手の声が聞こえない時などは仲介に入り伝達することがある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや食堂窓等に、季節にあった飾り物を定期的につけている。また、リビングの窓からは花壇も見えており、季節感を感じられる様にしている。トイレはフロア内に4カ所あり、それぞれ自由に使っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ、独りで過ごしたい時は居室へ戻られることが多い。また、廊下には小上がりが2カ所とソファ1台設置。野外も敷地内にはいくつかベンチを設置し、皆さん自由に過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご家族へなるべく新しいものでなく使い慣れた物を用意して欲しいと伝えている。お茶碗やお椀などもご自宅から持参して頂いている。日頃の作品やお祝いカードなども飾り、居心地良い空間を心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差解消、手すりやナースコール、オール電化など安心できる環境を整えている。居室には表札をつけ、トイレ等にはピクトグラムを表示している。初めての方は、居室入口の目印を置きお部屋が覚えやすいよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 認知症グループホーム 夕凧

作成日：令和 3年 2月 24日

市町村受理日：令和 3年 2月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地震など、火災以外の災害対応について防災ハンドブックや防災マニュアルを参考に年1回程度職員間で確認及び課題抽出の話し合いを行う事を期待します。	地震などの災害に対し、少しでも万全の態勢をとれるように、より現実的な訓練や計画、マニュアル作りに力を入れていきます。	古平町の防災ハンドブックや防災マニュアルを参考に防災訓練の計画を作成し、年1回それに沿った訓練を実施いたします。また、訓練を実施した後はそれぞれ反省点や課題を評価し、また次回の訓練への改善へと繋げていきます。	R4.3.31.まで
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。